

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2018年3月17日～2018年3月23日までの推移】

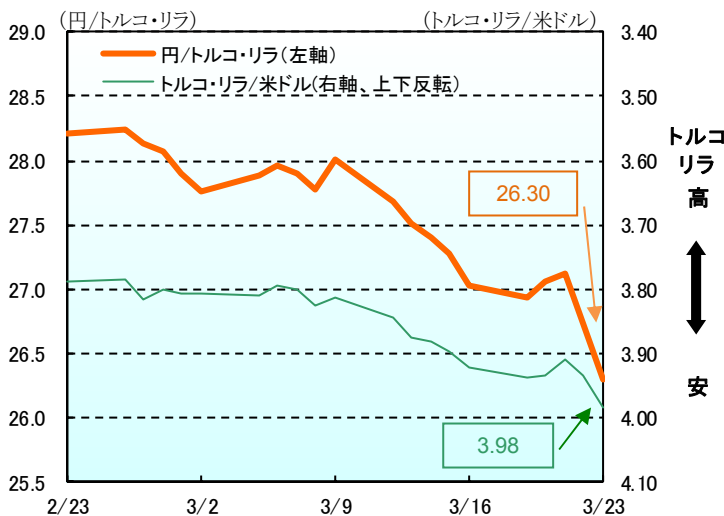
【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

米国の通商政策に対する懸念が高まり、投資家のリスク回避姿勢が強まったことや、ドイツのメルケル首相がトルコやロシアのシリア内戦への関与を強く非難したことからトルコの対外関係の悪化が懸念され、1週間を通して見ると為替、金利ともに軟調な推移となりました。

またトルコ・リラについては23日（日本時間）に対米ドル、対円で過去最安値を更新しました。背景には取引の少ない時間帯に個人投資家のロスカットなどの売りが集中したことが寄与したとみられています。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年2月23日～2018年3月23日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

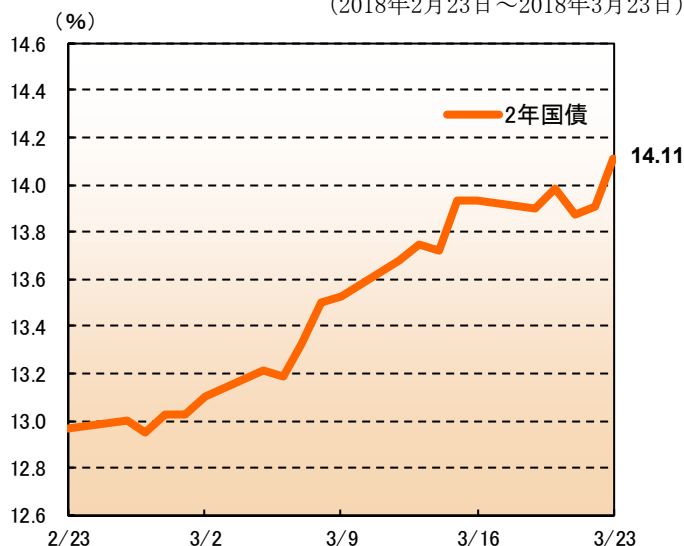
今週は2017年10-12月期のGDP(国内総生産)や貿易収支の発表が予定されています。前年同期比で見たGDP成長率については、前期から鈍化するものの、6%台の高成長を維持すると見込まれています。

エルドアン大統領はEU(欧州連合)のトゥスク大統領とユンケル欧州委員長と会談する予定となっています。2016年のクーデター未遂事件以降、トルコのEU加盟交渉は停滞しており、悪化している関係改善が期待されます。

引き続き、トルコと欧米諸国の関係性やそれに伴う政府関係者の発言については、今後もトルコの金融市場に影響を及ぼす可能性があり、状況を注視していく必要があると考えています。

【トルコ 金利推移】

(2018年2月23日～2018年3月23日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>